

大学ジャーナル

FREE

vol. 134 4・5月号

第24巻2号・通巻135号

発行所:くらむぼん出版 〒531-0071 大阪市北区中津1-14-2
TEL06(6372)5372 FAX06(6372)5374
E-mail KYA01311@nifty.com

大学ジャーナル
UNIVERSITY JOURNAL
ONLINE
http://univ-journal.jp



Highlight

03 **デキル! 学部**
2020年4月、尚美学園大学に
スポーツマネジメント学部(構想中)
が開設予定
スポーツを学ぶ。
社会をリードする。



04 **進路のヒント**
人を育てる、人をケアする、
人に寄り添う人になろう!
加速する国立大学改革—教育学部
2020年、日本初の
共同教育学部へ!
教育学部から、大学教育改革を
再加速したい
宇都宮大学長 石田 朋靖 先生
群馬大学長 平塚 浩士 先生



05 **シリーズ 大学が地域の核になる
京都文教大学の挑戦
～地域とより一層の繋がりを
築くために～**

06 **大学ジャーナルオンラインから**

縦組み1から5面(裏面からご覧ください)

05 **科学の甲子園特集
実技競技詳細解説**
連載 16歳からの大学論
むしろ「知識」ではなく「考え」を
京都大学准教授 宮野公樹 先生

01 **第8回科学の甲子園特集**



大学トップから高校生へのメッセージ

受験生・保護者、高等学校の進路指導に大きな波紋を投げかけている大規模大学の入学定員管理の厳格化^{※1}。
少子化が進む中、東京を頂点に大都市圏の大規模大学等に学生が集中し、
大都市圏周辺や地方の中小規模大学の学生募集にシワ寄せが及ぶことへの救済策として始まった。
自由競争を阻害するなどの批判も聞かれたが、効果が顕微鏡に表れた今は、そうした大学の真価が問われる時でもある。
大都市圏周辺や地方にあって、中小規模ながら受験生に選ばれ続ける大学^{※2}とは。
文部科学省で高等教育、私学担当などを歴任され、
4年前から尚美学園大学の学長を務められる久保公人先生にお聞きした。

※1 「平成28年度以降の定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取扱について(通知 平成27年7月10日付)」において、「平成31年度から、入学定員充足率が1.0倍を超える入学者がいる場合、超過入学者数に応じた学生経費相当額を減額する措置を導入する。」としていたことについては、平成28年度から平成30年度までの3年間にわたって段階的に実施した不交付となる入学定員超過率の厳格化により、三大都市圏における入学定員超過や三大都市圏以外の地域における入学定員未充足の改善(※1)、三大都市圏に所在する大・中規模大学における入学定員を超える入学者数の縮減(※2)といった効果が見られ…平成30年9月11日「平成31年度以降の定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取扱について(通知)」より

※2 「…我が国の高等教育機関については、私立大学が多く、かつ、小規模な大学等が多いのが特徴であり、特に小規模な大学が多い地方において…今後とも、地方の学生のニーズに応える質の高い教育機会を確保していくことが重要である。少子化は、経営面で厳しい影響を及ぼすことは確かであるが、一方で少人数教育によって教育の質を高めることが可能…」[「今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ」(2018年6月28日 中教審大学分科会将来構想部会)4.18歳人口の減少を踏まえた大学の規模や地域配置(地方における教育機会)より]

尚美学園大学 SHOBI UNIVERSITY

地域で輝く
大学となるために

尚美学園大学学長
久保 公人 先生



京都大学法学部 昭和55年卒
文部科学省教育助成局施設助成課長、
高等教育局主任大学改革官、
同私学部私学行政課長、生涯学習政策局政策課長、
同生涯学習総括官、大臣官房人事課長、
高等教育局担当審議官、スポーツ・青少年局長を経て現職
この間、北九州市企画局長、
東京大学理事等を歴任
日本高等教育学会会員
滋賀県立膳所高等学校出身

研究で世界に伍していくこと
と同じように、大学の教育力
を上げていくことが大事

18歳人口が大きく減少し、総人口も減少期に入った日本において、将来を支えていく若者の教育がこれまで以上に重要であることに、誰も異論はないと思います。一人ひとりの若者がしっかりと教育を受け、社会を支えていけるようにすることは国の責務であるとともに、大学、中でも学生の8割を受け入れている私立大学の大きな役割だと思います。

国による高等教育における大きな制度面の改革や枠組作りは、現状、トップエリートの上上げ、研究面で世界に伍していくための政策に傾きがちです。これは指標も立ち、説明しやすいからですが、実は日本の学生の大部分、将来、社会へ出て日本を支えていくであろうほとんどの学生は、こうした政策の恩恵を受けることはありません。企業の90%以上は中小企業と言われる

中、その多くはそういうところへ就職し、有権者として地道に日本を支えていくわけですから、そうした社会人全体のレベルを少しでも上げる政策にも力を入れなければ、日本の将来は危ういと思います。

またこれも一般的に言われることですが、優秀層には富裕層の子弟が多く、将来の保証もある。かつ国立大学へ進めば学費も少なくすみます。しかし8割を占める私立大学生の中にはその反対のケースも多いのです。

確かに右上がりの高度成長時代には、階層構造の中で、トップ層を伸ばせば、次の層、その次の層へとそれが伝播していくという図式を描くことも可能だったかもしれません。しかしこれからのフラットな、しかも少子化が進む社会では、世界に伍していかなければならないという部分は残るとしても、若者一人ひとりに知識とノウハウを身につけてもらい、一人の落ちこぼれもなく、生き甲斐を持って逞しく生きていってもらわなければなりません。

昨今は、少子化の中でたまたま仕事が増え、就職状況も改善していますが、かつてのように市場そのものが拡大していき、学生がいくら増えても仕事も増えていくという状況ではありません。しかも、全員が東京を目指し、「末は博士か大臣か」と言われたように出世を望んでいたのとは違い、今は、社長になりたい人が少ないと言われるように、そこそこの暮らしができればいいというマインドが若者の間に蔓延しています。こうした中で、日本の繁栄を維持していくには高等教育においても、一部のトップエリートだけでなく、あらゆる層に配慮した政策を立案し、予算を配分していくことが強く求められると思います。高等教育の無償化もいよいよ始まりますが、とりわけ中堅以下の成績の学生を受け入れている大都市圏周辺や地方の中小規模大学、その多くは教育に力を入れているところでもあります。そういう大学への投資が切に望まれます。

少子化、大都市圏集中の中で 選ばれる周辺、地方の 中小規模大学とは

《特色ある教育、面倒見の良い教育。

素早い意思決定》

もちろん限られた国の予算に対して、要求しているだけでは埒が明きませんから、各私立大学には建学の精神に基づき、自覚を持って、それぞれのアセスメント・ポリシー※3にそって人材を育成し、送り出した社会から高く評価されるよう努力することが求められています。本学で言えば、まさに開学の指針である「勇気・創造」を持って、ということになります。

中小規模大学には、一人ひとりの学生に目を向けた教育がしやすいということと、少ない学部や学科構成の中で教育の特色を打ち出しやすいという強みがあると思います。

本学を例に取れば、音楽の短期大学でスタートした経緯から、一人ひとりを大切にしていこうという伝統の下、短期大学時代には、学長を筆頭に全教員が全ての学生の名前を覚えているなど、とてもアットホームな雰囲気があったとも聞いています。4年制となり総合政策学部を作り、それは多少薄らいだかもしませんが、クラス担任とは別に80名の全専任教員が、全学生約2500名を分担して授業や学生生活について相談に乗る「アドバイザー制度」などに、伝統はまだ色濃く残っています。

特色のある教育内容、教育環境を提供し、スピード感をもって改革できるのも中小規模大学の特徴です。大規模総合大学は収入、財源が多く、教員もたくさん雇用でき、投下すべき資源も潤沢です。しかし反面、その多くは学部の独立性が強く、大学全体の特色作りはしにくく、素早い意思決定も難しい。その点、本学のような中小規模大学では、音楽とスポーツ、さらにはビジネスまでカバーする全国的にも珍しい組み合わせを追求することも可能です。その結果、幅広い学力層と多様な動機やキャリア意識を持つ学生が集まり、多様性に溢れたキャンパスが実現します。学生の中には、特定の分野に熱中してきた結果、高校まではそれほど勉強してきていない、あるいは一生懸命勉強したことがなかったため、大学の学問に触れて「意外に面白い」と感じる者もいる。一方、情報表現学科の「音響・映像・照明コース」など、学力レベルは高いけれど、ここにしかない分野ということで集まってくる学生もいます。スターになりたいと入学してくる学生がいる一方、そう考えて入学したものの、能力に限界を感じて裏方で生きていきたいと考えるようになった学生、あるいは最初から音楽関連の会社や組織でスタッフとして働きたいと考えている者もいる。また明確な目的意識もなく入学したけれど、本物のスタジオさながらの施設、音響設備などを使って学ぼううちに、自分のしたいことに目覚めるというケースもあります。

当然、方向転換のしやすい多様なカリキュラム、カリキュラム編成も必要です。高校時代まで音楽、情報、スポーツなどの分野に熱中してきて、それを職業にする・しないにかかわらず、社会人になってもそ

れを趣味として生かしていきたい。そういう希望を叶えることのできる大学、そういう多様な学生を、大々的に育成できる数少ない大学を目指すこともできるのです。

※3 アセスメント・ポリシー(学修成果の評価の方針):尚美学園大学は、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3つのポリシーに基づき、機関レベル(大学全体)、教育課程レベル(学部・学科、科目レベル(授業・科目)の3段階で学修成果等を検証する。
1.機関レベル(大学全体):学生の卒業率、就職率、アンケート等から、学生の学修成果の達成状況を検証する。
2.教育課程レベル(学部・学科):各学部・学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA等から、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を検証する。
3.科目レベル(授業・科目):シラバスで提示された学修目標に対する評価、授業アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証する。

《地域連携》

地域連携も中小規模大学が持ち味を生かすための重要な取組の一つです。本学の立地する川越市は、埼玉県の中でも小江戸川越と呼ばれ、商業、工業ではなく歴史と伝統を謳い、芸術、文化による町づくりのために、伝統文化、音楽、芸術と連携していきたいとしています。こうした中で、市長も本学の音楽祭に時々足を運ばれたり、市主催の物産展などの様々なイベントに、本学の音楽やスポーツ分野の学生が、ボランティアとして参加したりするなど、本学との連携を深めています。私も、北九州市へ出向して地域のための人材づくりに携わった経験を活かし、川越駅前のホールのアドバイザーボード(経営諮問委員会)に入ったり、商工会等へ顔を出したりして人脈作りに励んでいます。周辺の大学も、それぞれ地域との連携を進めていますが、地理的には本学が真ん中に位置していて、結びつきも一番強いと思います。また同じ音楽でも、ポップス、ジャズ、ミュージカル、ダンスと幅広いジャンルをカバーし、よりエンターテインメント系に寄っている本学は、市の求める文化とのかかわりを持ちやすいとも言えます。

時代に対応した教育で、 可能性を秘めた大学に

グローバル化が加速するとともに、Society 5.0などの新しい社会への移行が目指される中、個々に求められるものやスキルは、今後、大きく変化していくと予想されます。ところが大学は、そうした変化に合わせるというより、自らが用意した学問分野毎に、たとえば法学部、経済学部、理学部といったような枠組みで学生を集めてきましたし、各学部の構成も、総合政策系の学部なら、法・経といった伝統的な学問分野を中心に置き、学生がその中から将来のキャリアを想定して必要な科目を選択していくという形がほとんどでした。

しかし今は、それだけですべての受験生のニーズに応えられるとは思えません。今後の大学運営としては、時代に合わせた学問分野に重点を置き換え、なおかつ多様なコース等を設け、さらにそれを臨機応変に組み替えていく必要がある。たとえば法学部で言えば、「憲法」を中心に固定するのではなく、「商法」「会社法」といった、より企業やビジネスマンに関連の深い科目を増やす、あるいは公務員、起業家、ビジネスマンを目指す実践的なコースを編成し、中身も時代に合った科目に組み替えていくといった具合です。

本学ではこのような考えに基づき、ここ数年間、毎年のように全学でカリキュラムを改正し、新しい学び方を導入したり、新しい専攻を作ったりしてきました。具体的には情報表現学科では、ブラックボックス化の進む工学系の部分はあえて避け、ソフト分野に軸足を移す。また6つのコースの中から好きな科目が選べる「クロスオーバー学習制」の導入です。音楽表現学科では、音楽教員を目指す「音楽教育専攻」に加えて、演奏力を高めることよりも好きな音楽に係わっていくことを大事にしたいという学生のための「音楽教養専攻」を開設しました。

本学のような大学は、高校からの推薦入学者が多いため、こうした改革が口コミに乗ると高校での評価が高まり、学生募集の追い風になります。実際、入学者数は私が学長になってから増加に転じ、今年は800名(定員660名)を超えました。もちろん改革はこれで十分というわけではありません。変化の激しい時代には、5年から10年同じことを続けているとすぐに時代に合わなくなってくる。今後ともさらなる見直しを続け、受験生のニーズに合った大学へと進化していかなければなりません。そして近い将来には、学部の壁を取り払い、もっと自由に好きな科目が取れ、転学科、転学部もしやすい大学を目指したいと考えています。

2020年4月、 スポーツマネジメント学部(構想中) の開設を予定しています

こうした一連の改革の流れに乗り、2020年に開設を予定しているのがスポーツマネジメント学部(構想中)です。ベースとなるのは総合政策学部のライフマネジメント学科スポーツコース。「音楽の尚美」として知られてきた本学にあって、総合政策学部の存在は多少認知はされてきましたが、その中にあるスポーツコースは人気を集めてきたわりには認知度があまり高くなかった。そこでそれをスポーツの名称を冠した新しい学部へ拡大して、芸術と並ぶ本学のもう一つの柱にしたいと考えています。

近年、生涯スポーツの概念の浸透や、自

然体験の少ない子どもの健康増進、健全育成、超高齢社会における介護予防、健康寿命の延伸など、スポーツの捉え方は大きく変化し、スポーツ関連人材のニーズも高まっています。また2011年のスポーツ基本法に基づき、2012年には「スポーツ基本計画」が策定され、その起爆剤と目されたオリンピック招致も実現しました。そして5年目の見直し時期に当たる2017年に出された「第二期スポーツ基本計画」では、スポーツの概念を「する」だけでなく、「みる」「ささえる」にまで拡大し、エンターテインメント、イベント系、施設管理系など、分野そのものの拡大も明記されました。またスポーツの成長産業化として、スタジアム・アリーナの改革、スポーツ経営人材の育成・活用、新たなスポーツビジネスの創出・拡大なども謳われています。

このような流れの中で、近年はスポーツ関連分野を教育組織の中に取り入れようとする大学も多いようですが、情報表現学科でエンターテインメント系分野を、総合政策学科でビジネス分野をカバーする本学としても、スポーツとそれらの分野とを連携させた新しいスポーツ学を創出できるのではないかと考えました。最近ではフェンシングなどでも音響効果をいかして、見て楽しい演出がされていますし、フィギュアや、オリンピックの開会式・閉会式も音や映像とのセッティングが工夫されています。スポーツができる学生に、音楽、情報分野を融合させたエンターテインメント系やビジネスのノウハウを学んでもらうことで、ユニークな領域をカバーする他にない「教育」を通じて、「基本計画」が言うところの《新しい分野で活躍する人材》を育成できるのではないかと考えたのです。さらに言えば、スポーツと音楽とを市場規模で比較した場合、前者は少ないと言われるながらも5.5兆円ぐらいあり、CDの売り上げから見ると音楽の約3000億円(レコード協会による)よりも遥かに大きい。しかもその10~20倍と言われるアメリカを意識して、少なくともこの5.5兆円を2025年には15兆円にしようという目標も掲げられています。社会に役立つ人材育成という観点からも、より大きな市場で活躍する人材の育成は急務だと考えたのです。

UNIVAS※4について

この新しい日本の大学の試みについては、二つの視点から見ておく必要があります。一つは大学のスポーツ組織が、放映権を持つなどしてビジネスをしながら体制を整備していくという点、そしてもう一つは、スポーツ選手の学業支援を今以上に強化し、文武両道のスポーツマンを育成するという点です。前者についてはモデルとしているアメリカのNCAA※5にどれぐらい近づけるかはまだまだ未知数ながら、本学としては主として後者のメリットを勘案して加入しました。

アメリカのNCAAはビジネスモデルが完成していますが、日本の体育会、運動部には、外部から監督、コーチを招くなどして、大学とは独立して活動してきたところが多い。そのため大学としてほとんど関与していなかったり、何が行われているか関知していなかったりするケースも多く、今後それをどう変えていくのかは大きな課

題だと思えます。実績のある学生をスポーツ特待生として募集しサークル活動を作るといったように、学生募集戦略に徹して経営と一体としてやってきた本学には、そのような心配はありませんが、ビジネスモデルとして伸ばしていけるかは次のステップになります。このことは、大学についてだけでなく、そもそもプロのスポーツ組織の運営とも関係していて、しばらくは試行錯誤が続くと思います。

後者については、アメリカの大学スポーツでは、学業成績が悪いと試合に出られなくなると言われていて、日本にもそうした考え方が定着していけば大学スポーツの質が向上し、大学でスポーツすることの意味や社会の評価も、これまで以上に高まるのではないのでしょうか。

※4 一般社団法人大学スポーツ協会、略称。2019年3月に日本の大学スポーツを統括する団体として発足。

※5 National Collegiate Athletic Associationの略。全米大学体育協会。

デキル!学部

2020年4月、尚美学園大学にスポーツマネジメント学部(構想中)が開設予定

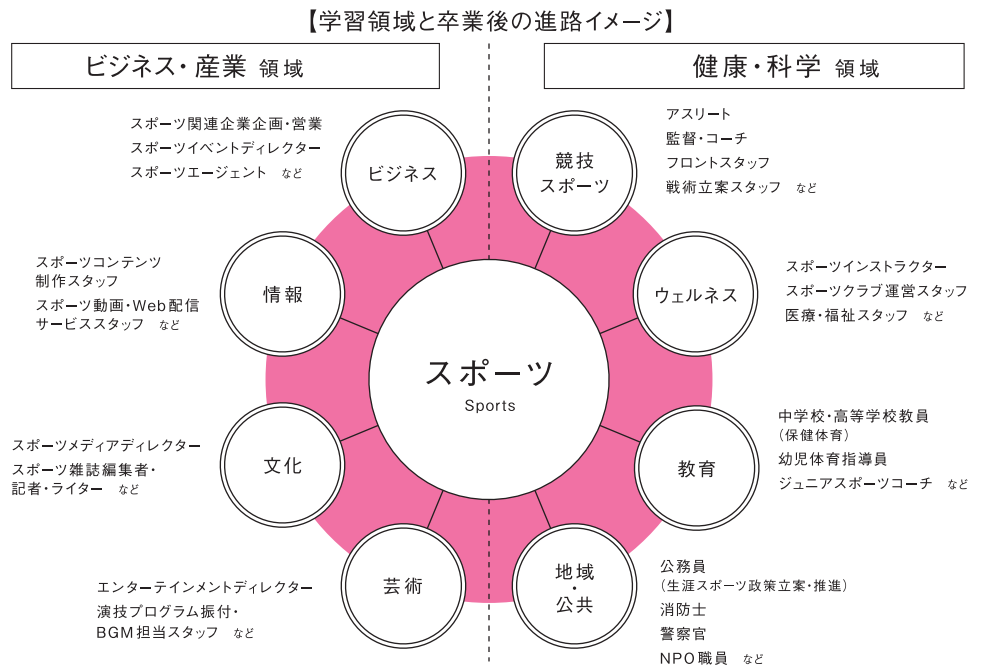
スポーツを学ぶ。社会をリードする。

運動能力の向上のための効果的な指導法をはじめ、健康増進、加えてエンターテインメントや情報ビジネスとの融合で、従来のスポーツ学の枠組みを超えた多彩な学びを可能にする新しい学部が誕生します。その名もスポーツマネジメント学部(構想中)。学びの最大の特長は、既存の2学部との連携。「健康・科学」領域に「ビジネス・産業」の領域を加えた6つのテーマ(左下一覧)について、卒業後の進路に直結する専門科目群による5つの履修モデル*を選んで学びます。インターンシップ、ボランティアなどの体験型プログラムも充実。また中学・高校教諭の一種免許の他、様々な資格取得が可能です。

*プロチーム運営スタッフ、スポーツ施設運営スタッフ、スポーツイベントマネージャー、スポーツインストラクター、保健体育教員



- スポーツ×ビジネス** | スポーツ施設への集客、スポーツチームのファン獲得など経営面に欠かせないノウハウを学びます。
- スポーツ×マーケティング** | 急成長したスポーツ用品メーカーのブランド戦略など、スポーツをキーワードに新しいカルチャーを生み出す方法を学びます。
- スポーツ×イベント** | 話題の新種目「e-Sports」など世界を沸かせるイベントを考えます。
- スポーツ×エンターテインメント** | いつでもスポーツ観戦ができるような動画配信サービスなど、情報というアプローチからスポーツの魅力をいかに発信するかを学びます。
- スポーツ×データ分析** | トップアスリートの強さの秘密をスポーツ科学で解明するなど、科学の視点でスポーツを支えるスペシャリストを育成します。
- スポーツ×教育・指導** | 「身体」や「健康」への関心の高まりを背景に、スポーツを通して多くの人々の健康を守るための方法を学びます。



教員からのメッセージ



小泉 昌幸
教授
学部長予定者

ここにはスポーツを多面的に捉えた実践的で新しい学びがあります。入学前にはスポーツにアンテナを。「スポーツが好き」という気持ちを持つ、すべての人を歓迎します。



梶 孝之
准教授

好きを深め、得意を極める4年間を。競技だけでなく、観ること、分析すること、応援することが好きな人もスポーツが好きです。その好きを活かし、将来の仕事につなげてほしい。



茂木 康嘉
専任講師

スポーツは常に自ら考えて行動し、挑戦するもの。また一人で行うものでもありません。4年間、スポーツを自分の中心軸としたハイブリッドな学びを続けることで、何にでも興味の持てる、前向きな姿勢を身に着け、どんな職種でも十分に活躍できる力を養って下さい。



宮坂 雄悟
専任講師

新しい学部には、4年間を通して、自分がどのようにスポーツに関わっていくのかをじっくり考える幅広い学びの機会があると思います。教員や指導者を目指す人には、自らの指導を客観的に、長い目で見る力と、新しい「スポーツ観」を養ってほしいと思います。

オープンキャンパスに参加して多彩な「学び」を体験しよう!

OPEN CAMPUS 2019

オープンキャンパス開催日程 10:00~15:00(参加時間自由)

6月2日(日)	6月23日(日)	7月21日(日) 指定サークル体験同時開催
8月9日(金)	8月19日(日)	8月24日(土) 指定サークル体験同時開催
9月29日(日)	12月15日(日)	2020年 3月29日(日)

尚美学園大学
SHOBI UNIVERSITY

〒350-1110 埼玉県川越市豊田町1-1-1
入試・広報課 0120-80-0082
info@s.shobi-u.ac.jp
大学HP https://www.shobi-u.ac.jp

オープンキャンパス当日プログラム

学科ガイダンス
体験講座・入試説明
キャンパス見学ツアー
ワンポイントレッスン
ワークショップ
個別相談
フリーカウンセリング
キャンパスランチ体験など



point
01

参加時間自由

都合のいい時間を選んでいつでも参加できます!

point
02

体験講座選択自由

希望にあわせて興味がある体験講座にいくつでも参加できます!

進路の
ヒント人を育てる、人をケアする、
人に寄り添う人になろう!

トピックス 加速する国立大学改革 — 教育学部

2020年、日本初の
共同教育学部へ!教育学部から、
大学教育改革を
再加速したい宇都宮大学長
石田 朋靖
先生

Profile

昭和30年2月6日生まれ。1978年東京大学 農学部 農業工学科卒。1984年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了。1983年8月山形大学農学部助手。1991年4月同助教授。1992年4月宇都宮大学農学部助教授。2000年9月同教授。2005年12月国立大学法人宇都宮大学評議員(兼務)(平成20年3月まで)2008年4月国立大学法人宇都宮大学農学部長(兼務)(平成21年3月まで)2009年4月国立大学法人宇都宮大学理事(平成27年3月まで)2015年4月から現職。群馬県立高崎高等学校出身。

群馬大学長
平塚 浩士
先生

Profile

昭和20年(1945年)1月13日生まれ。昭和42年 群馬大学工学部卒。昭和44年東京工業大学大学院修士課程修了、昭和47年同博士課程修了(理学博士)。昭和47年6月東京工業大学助手(理学部)1992年群馬大学教授(工学部)。同工学部応用化学科長(平成8年3月)、工学部応用化学科長(平成19年3月)群馬大学教授(大学院工学研究科)、国立大学法人群馬大学理事(企画・学術担当)・副学長国立大学法人群馬大学理事(研究・企画担当)・副学長、国立大学法人群馬大学理事(研究・企画担当)・副学長、2015年4月から現職。専門分野は機能物質化学、物理化学(光化学)。栃木県立足利高等学校出身。

その仕組みや全体像、
特徴は?

——まず基本的な仕組みからご説明ください。

石田：モデルは平成24年にスタートした鹿児島大と山口大の共同獣医学部にあります。たまたま大学時代の友人が、山口大学側の担当ということで話を聞いていました。もちろん獣医学部と教育学部とでは修業年限も定員規模も違いますし、国家試験の有無などによる違いはあります。しかし連携する大学、学部が共同して、弱い科目を遠隔授業で補い合ったり、あるいは新たな課題に対応する共通科目を共同して設け、お互いの教育課程をほぼ同じようにして教育の質を高めようという点は同じです。

平塚：知識をきちっと伝えることを目的とする教養科目や専門科目を、双方で提供し合うのが「せいいつ教育」ですね。それぞれ31単位ずつ出し、どちらの学生も62単位取る。今回の共同教育課程の卒業要件としては相手側大学の授業を2割以上取ることでなっています。「共通教育(科目)」も大きな特徴です。二大学間で単位数やシラバスなどを統一し、同一科目名で開講します。どの教育分野にも当てはまると思うのですが、カリキュラムが必ずしも必要十分なものになっておらず、いまだに教員が自分で教えたものが大きな位置を占めている場合もある。全く違う組織同士で共通のカリキュラムを作るということは、こうした観点での改善効果もあり、国際的な通用性のある教育を進める上でも効果は大きいと思いますね。

石田：かなりの科目は通信メディアによ

る遠隔授業で行いますが、鹿児島、山口両大学からは、リアルの授業と遜色のない成果が得られているという報告も出ています。この間、情報技術は着実に進歩し双方向型の授業にも十分耐えられるような臨場感も期待できますし、空間に実像を形成する3Dの空間ディスプレイなどの技術によって、本物に近い臨場感まで味わえるのもSF映画の世界の話ではなくなりつつあります。こうした技術進歩を念頭に置きながら、遠隔講義を前向きにとらえ、ブラッシュアップする必要があると思います。もちろん教育実習や実技科目などはリアルのまま残るでしょう。

——学生の行き来は?

平塚：実技科目などは対面式の授業が行われますが、その場合は教員の移動を中心とした集中講義を考えており、学生の移動は、新設する合同ゼミ合宿の形をとる「教職特別演習(集団宿泊研修)」だけです。教育実習の前後(長期休暇中含む)に、赤城と宇都宮の野外実習ができる研修施設で2度行う予定です。

石田：それ以外にも、卒論レベルのゼミ単位で共同ゼミや発表会をするなど、相手校へ出向く機会はあるかもしれませんが、正門から正門まで車で1時間半くらいで行き来できるからやりやすい。

——学位は?

石田・平塚：二大学の連名で出します。

——入試について

石田：2020年度入試からは、両大学とも4系13分野という同じ枠組みでの募集になり、一般入試(前期日程)の個別学力検査等は実技教科を除き小論文と面接になります。

改革を加速する国立大学の中にあって、特に注目の集まる教育学部。86大学中の約半数が設置するように、地域の教育の要、義務教育教員養成の中核的な担い手として期待されている。一方、少子化の進行が止まらない中、教員の需給予測から全体規模の縮小までもが言及されている(「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて——国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校有識者会議報告書」2017年8月)。同時に、グローバル社会に対応し、ソサエティ5.0^{*1}を築くに必要能力の育成が急務とされる今、規模縮小の議論に加えて、これまで以上に質の高い教育を求める声も高まっている。

そんな中、共同で教育課程を編成し学部教育の充実を図ろうという《共同教育学部》の開設を予定しているのが群馬大学と宇都宮大学。両大学の学長に、そのいきさつやこれまでの経緯、具体的な工夫、目指すところなどについてお話をいただいた。

義務教育課程、教員研修体制に対して従来通り責任が持てる。

平塚：しかも二学部部分のリソースがあるから、教員を戦略的に配置でき、社会のニーズに応える英語教育、特別支援教育なども拡充できます。

石田：宇都宮大学はこれまで、特別支援学校教諭免許としては3領域(知的障害・肢体不自由・病弱者)しかカバーできていなかったが、聴覚障害を加えた4領域をカバーする群馬大学と共同することで、教員を戦略的に採用し4領域に視覚障がい者を加えた5領域に対応できるようになります。

平塚：ほかにも様々なシナジー効果が期待できますね。

石田：宇都宮大学は小学校教員の養成に力を入れていて、小学校でのリーダーや指導法の提案者となることを目的とする「アドバンスト科目」を設けていますし、分野による縦割り意識に陥らないよう、4年間「一括クラス」で過ごすなどの特色があります。

平塚：中学校教員の育成に力を入れている群馬大学では、1年次から学校現場に触れる授業を行っていて、二大学が共同することでお互いの強みを共有できる。

石田：次期学習指導要領を見据えた教員養成、なかでも英語教育、グローバル教育やICT／プログラミング教育、Society 5.0に対応する先進開発教育のためのForefront先端科目群や、SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)に対応するESD(Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)も強化できますね。

平塚：総合大学としての強みも発揮しやすい。

石田：宇都宮大学には国際学部があり、多文化共生プログラムや実践的な英語教育が強い。また農学部があり、附属農場・演習林での農林業体験もできますから、食・生命・環境教育をサポートできる。

平塚：群馬大学には数理データ科学教育研究センターがあり、教科におけるICT活用法だけでなく、プログラミング教育もサポートできます。更に医学部がありますので、心や体の健康を支える教育もサポートできるでしょう。

石田：相互の学生交流も楽しみです。「一括クラス」同志、メディアで交流したり、集団宿泊研修(教職特別演習)などを通じて、これまで以上に人間力、協働力を育成して行きたい。

平塚：教職を目指す意欲も醸成でき、結果的に教員採用試験の受験率や合格率も上がると期待しています。まさに教育学部

得られるもの、
目指すところは?

——取組の背景、いきさつ

石田：それを説明する前に、この取り組みが生まれた背景を説明したい。

教育学部については平成13年に「今後の国立の教員養成系大学・学部の在り方について(報告)」が出され、少子化による需給見通しだけでなく、ゼロ免課程の存在や就職率の低さなどが問題とされる中、2004年(平成16年)には島根大学と鳥取大学が統合しました^{*2}。

平塚：同じ頃、われわれは教育学部を軸に埼玉大学との統合を検討していました。結果的には挫折しましたが…。

石田：当時と比べ今は、状況はさらに切迫しています。少子化の進行が止まらず第6期(2034年～)には、宇都宮大学は現在の入学定員170名を、群馬大学は220名を、それぞれざっと100名程度にまで減らさなければならないとも言われている。

平塚：そうなる教科を教える講座も縮小せざるを得ない。しかし県の教育委員会が地元の国立大学の教育学部に寄せる期待はとても大きい。義務教育、中でも中学校教員養成にはすべての教科(10教科)に対応してほしいということです。統合によって補っても、地元の大学から取得できない免許が出てくるのは困ると。実はそれが、埼玉大学との統合が挫折した要因でした。

——地域の教育学部が弱体化せず、シナジー効果も高まる

石田：共同教育学部は、この点をまずクリアできます。地域から教育学部がなくなったり、弱体化したりしないことで、義

に求められる教員養成機能の強化と教員養成教育の質の着実な向上が図れると思います。

石田: 欲を言えば、100名程度収容できる学生寮が双方にあるといいですね。教育効果はもっと上がると思う。

平塚: 同感です。

石田: ゆくゆくは、両県はもとより他地域の私立大学の教員養成課程への授業(コンテンツ)提供も可能にしたいし、地域の教員養成の質をさらに高め、骨太な教員を育てることで初中教育の質向上に対する役割を果たしたい。

——そもそもなぜこの二大学ですか？

平塚: 埼玉大学との統合構想以外にも、具体的な連携にはいくつかの実績があります。例えば産学連携の観点からは、埼玉・茨城を入れた「北関東4大学(4U)」で、URA※3の採用、活用では茨城を入れた三大学で。

石田: こうした中で、そもそも宇都宮大学と群馬大学とは、医学部の有無を除けば、部局数や学生定員数などはかなり近く、しかも平塚先生とは10年前の学務担当理事時代からのお付き合いで気が知れていました。

平塚: 二大学とも悩みの本質はほぼ同じでした。そして4年前、お互いに学長になった時点で、教育学部はこのままでは難しい状況に陥るといって共通認識に至りました。そこで経営の問題からではなく、地域の教育を支えるという責任感から改革に踏み切ろうと話し合いを始め

ました。

**日本で初の試みとなる
共同教育学部に期するものは？**

石田: 以来、双方の執行部や教育学部のみなさんの協力を得て、ようやくこの春、ここまで漕ぎつけることができました。まだまだ未知数の部分もありますが、後戻りせず、改革を進めたい。

平塚: 事前に想定したことだけでなく、やってみるとわかってくることもあるから楽しみです。たとえば「共通科目」を作る際には相互の教員が、同じテーブルにつくわけですが、みなさん喜々としてアイデアを出し合っておられたのが印象的でした。

石田: 現在の状況からは、教育学部の改革は待たないですが、他の学部も今ままでいいわけではないと思います。「教育の質の保証」と言われて久しいが、どれだけ進んでいるのか。教育学部は目的が明確な学部だからこそ、負の側面に光が当たりやすかっただけ。平塚先生とは工学教育改革の中で、JABEE認定プログラム※4の導入で一緒に汗を流しましたが、結果的には企業が取り上げてくれなかったため思うように広がりませんでした。教育の質保証、3P※5の明確化などについては、今よりはるかに踏み込んだ議論をしていました。それもあって、今回の改革が、大学教育改革を今一度加速させることにつながってほしいと願っています。



10年来、個人的な信頼関係を築いてくれたお二人。「お互いを蹴落とすのではなく、一緒になってそれぞれの大学の発展を願って」というトップ同志の信頼関係も改革推進の原動力だったと、石田先生が群馬出身、平塚先生が栃木出身で、「出身がお互いにクロスしているのも何かの縁かもしれない」とも。

平塚: 大学全体の資産を使っただけの改革です。まずはこれまで無関心だった学部が関心を示してくれるとありがたいですね。

石田: 他大学とさえ連携するわけだから、学内でするのは当たり前と。

平塚: 私は、学部教育においては教育学部ほど重要なものはないと思っています。ここに次世代を担う人材の育成がかかっているからです。大学教育改革を加速させる鍵を、ある意味で教育学部が担えたらとても象徴的です。

石田: 日本の高等教育は、このまま放っておくと劣化する一方だと思います。教育学部だけでなく、大学全体のリソースを結集してそれを食い止める必要が遠くから訪れる。それには一法人複数大学制

度や大学等連携推進法人の制度運用だけが唯一の方法ではないはず。今回のチャレンジが、そのための選択肢の一つ増やすことにつながってほしいと思います。

※1 科学技術基本法第5期でキャッチフレーズとして唱えられた未来社会のコンセプト、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムによって、経済発展と社会的課題の解決の両立を目指す。
 ※2 鳥根大学の、教育職員免許取得を卒業要件としない学習課程と生活環境福祉課程の定員計100名を鳥取大に移動する一方、鳥取大の教員養成課程の定員70名を鳥取大に移動、教員養成に特化した。
 ※3 University Research Administrator(リサーチ・アドミニストレータ。研究開発内容について一定の理解をもち、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材)。
 ※4 Japan Accreditation Board for Engineering Education(一般社団法人日本技術者教育認定機構による、国際的に通用する技術者の育成を目的に1999年に設立された)。
 ※5 アドミッション、カリキュラム、ディプロマそれぞれについての方針(ポリシー)。

シリーズ **大学が地域の核になる—京都文教大学の挑戦**

～地域とより一層の繋がりを築くために～

これまでの京都文教大学・京都文教短期大学と地域との連携協定をまとめてみました

地域に根ざした大学として、地域連携を推進している京都文教大学では、それを、より強固なものとするため、2010年に大学・短期大学の所在地である宇治市と包括連携協定を締結。以降もいくつかの行政や経済団体と連携協定を結び、より一層の連携強化に努めてきました。近年は、大学COC事業「京都府南部地域 ともいき(共生)キャンパスで育てる地域人材」の取組を通じ、宇治市のみならず京都府南部地域の市町村との繋がりにも力を入れています。今回は、これまでに京都文教大学・京都文教短期大学と地域とが結んできた連携協定についてまとめてみました。

	締結日	連携先	内容
1	2010年2月	宇治市	まちづくり、教育・文化・スポーツの振興、子育て支援・臨床心理、産業振興、人材育成等で相互協力する包括連携協定を締結
2	2015年3月	京都府	地域振興や人材育成などで連携、協力する包括連携協定を締結
3	2018年2月	久御山町	まちづくり、教育・文化、子育て支援、産業・観光の振興、人材育成など幅広い分野で連携、協力する包括連携協定を締結
4	2018年7月	京都府	京都府内の企業情報を学生へ周知、府内企業説明会の実施、インターンシップ受入支援など就職支援に関する協定を締結
4	2018年11月	滋賀県	滋賀県内の企業情報を学生へ周知、滋賀県内企業説明会の実施、インターンシップ受入支援など就職支援に関する協定を締結
5	2019年2月	精華町	地域振興や人材育成などで連携、協力する包括連携協定を締結(右上)
6	2019年3月	宇治商工会議所 城陽商工会議所 久御山町商工会	京都府南部3市町の商工団体と包括連携協定を締結(右下)

精華町との包括連携協定



2019年2月21日(木)には、精華町役場で、木村要精華町長(中央)、京都文教大学平岡学長(右)、京都文教短期大学安本学長(左)の3者による協定締結式が行われました。この協定を契機に精華町では、今後、各種事業で、学生ボランティア、健康、食育、観光などをテーマにしたフィールドワーク、学生のインターンシップなどを積極的に受け入れる予定。また2019年度に開催予定の子育てをテーマとしたシンポジウム(精華町と共催)に向けても準備を進めています。

宇治、城陽、久御山、京都府南部3市町の商工団体との包括連携協定



2019年3月7日(木)には、かねてより地域連携で深い繋がりのある宇治商工会議所、城陽商工会議所、久御山町商工会とそれぞれ連携協力包括協定を締結。宇治商工会議所からは山本哲治会頭(写真中央)、城陽商工会議所からは堀井美郎会頭(右から2人目)、久御山町商工会からは西村好会長(左から2人目)、そして京都文教大学の平岡聡学長(左)、京都文教短期大学の安本義正学長(右)がそれぞれの協定書に署名しました。

京都文教大学に隣接するこれらの市・町は、古くから「宇城久」と呼ばれ、一つの経済圏を形成してきたため、それぞれの商工会議所・商工会間の交流も盛んに行われてきました。そのため今回の包括連携協定は各商工会議所・商工会ごとの相互協定とはいえ、「宇城久」での地域連携活動を横断的なものとし、より活発に、円滑に、発展的に進めるという合意に基づいています。

京都文教大学では今後も「地域に根差した大学」として、教育、研究、そして地域貢献に、地域の方々とともに努めてまいります。

平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰に静岡理科大学の佐藤彰教授らが決定



文部科学省は2019年4月9日、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を顕彰する「科学技術分野の文部科学大臣表彰」で、平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者を発表した。

静岡理科大学理工学部機械工学科エア・モビリティ研究室の佐藤彰教授は、京都大学大学院の中西弘明講師、アイエスの大川宏久社長、ヤマハ発動機の中村克統括部長らと産業用無人ヘリコプター（ヤマハ発動機）の制御装置の開発における業績が認められ、開発部門で受賞した。

■受賞概要

【業績名】

産業用無人ヘリコプターの制御装置の開発

【受賞者名】

佐藤彰 静岡理科大学理工学部機械工学科教授(筆頭者)

中西弘明 京都大学大学院工学研究科講師

大川宏久 有限会社アイエス取締役社長
中村克 ヤマハ発動機株式会社ソリューション事業本部ロボティクス事業部UMS統括部長

【業績概要】

産業用無人ヘリコプターは農薬散布用として開発されたが、飛行特性が不安定であることから操縦は難しく、その普及は進まなかった。また、火山観測などの災害対応用途の利用には、自律で飛行する制御システムの開発が必要であった。

本開発では、農薬散布用の姿勢制御装置および速度制御装置の開発を実施した。また、災害対応用途向けには、自律航行型飛行制御装置の開発も実施した。

本開発により、産業用無人ヘリコプターの操縦安定性が高まり、初心者でも安心して散布作業が行えるようになった。現在では稲作での散布面積は45パーセントを超え、麦や大豆等にも利用が拡大され、日本の農業には欠かせないものとなっている。

また、自律航行型飛行制御装置により、可視外でも決められたルートで

安全に飛行することが可能となった。この結果、火山観測や東日本大震災後の線量率モニタリングなどの災害対応用途向けにも活用できるようになった。

本成果は、世界に先駆けて農業や災害対応などの産業用途に無人ヘリコプターの活用を実現したことであり、農業振興や災害復興に寄与している。

千葉商科大学、学生がワイン作りプロジェクト始動 クラウドファンディングで支援金募る

千葉商科大学は2019年1月から、環境問題、地域貢献に取り組む「CUC100(ワンハンドレッド)ワインプロジェクト」を始動させた。プロジェクトの活動、運営費は学生がクラウドファンディングで支援を募る。

千葉商科大学は「環境・エネルギー」や「安全・安心な都市・地域づくり」など、4つのテーマについて学長プロジェクトを展開しており、地域を志向した社会づくりや、大学としてSDGs(持続可能な開発目標)へ貢献することを目指している。

今回始動した「CUC100ワインプロジェクト」は、「環境・エネルギー」分野の一環。2018年度、千葉商科大学が創立90周年を迎えたことを記念し、プロジェクトメンバーである在大学生が創立100周年に向けて千葉県市川市産の大学オリジナルワインの醸造に挑戦する。

畑の管理や農作業は学生だけでなく、地域の子ども、障がい者、農家、市民の方々との協働体制で行い、また、協働作業を交流のきっかけとし、地域の課題について情報交換が自然に行える場としていく。

ぶどう畑は、旧ピッチング練習場を土壌改良して耕したもので、ぶどう以外に野菜作りも行う。設置予定の井戸は農作物の栽培だけでなく、災害時の飲料水としても利用。さらに、ソーラーシェアリング設備を導入し、発電した電力は学内で消費する。

プロジェクトの初期費用の一部はクラウドファンディングで募集中で、目標金額は3,000,000円。募集期間は2019年2月1日～2019年3月29日。



城西国際大学、海外派遣学生数が全国第9位に



城西国際大学は、日本学生支援機構(JASSO)の「2017年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」において、海外派遣学生数が全国の大学で9番目(858人)にランクインした。

城西国際大学は、さまざまな学生のニーズに対応するため、短期・中期の海外研修だけでなく、休学せずに卒業できる長期留学が可能な独自のJEAP留学など留学しやすい環境を整えており、海外派遣学生数が652人だった2016年度と比べ、2017年度は858人と増加した。

こうした学生たちの留学をサポートする制度のひとつに、日本学生支援機構の「2019年度海外留学支援制度(協定派遣 短期研修・研究型)」がある。城西国際大学では、薬学部の「患者中心主義に基づく服用管理支援ができるグローバル・ファーマシストへー世界標準の薬剤師を求めて、米国薬学研修UCR2020」や観光学部の「グローバル観光人材育成のためのハワイ・インバウンド研究プログラム」など全学部で24プログラムが採択された。この制度は奨学金が返還不要で、短期留学プログラム参加者にとっては大きな経済的支援となっている。

さらに、城西国際大学では2019年度入試より新たに授業料が最大4年間半額となる「J特待生制度」を新設。こうした大学の取り組みによって、海外留学しやすい環境が整い、今後も海外派遣学生数が増える見込みという。また、日本学生支援機構が発表した「2018年度外国人留学生在籍状況調査結果」では、城西国際大学に在籍する外国人留學生数は全国24番目(1,210人)となった。

麗澤大学、2020年4月に「国際学部」を新設予定

麗澤大学は、2020年4月に「国際学部」を新設する(設置構想中)。

麗澤大学が新設予定の「国際学部」は、2学科3専攻(国際学科:日本学・国際コミュニケーション専攻/国際交流・国際協力専攻、グローバルビジネス学科:グローバルビジネス専攻)で構成され、人文科学と社会科学にまたがる学問領域をつなぎ、国際社会に対

応するグローバルリーダーの育成を目指す。

「日本学・国際コミュニケーション専攻」では、クラスの3分の1を占めるアジアやEUなどからの留学生と日本人学生が共に、日本文化や社会を学び、学生の国際性を養う。「国際交流・国際協力専攻」は、国際交流・観光・国際協力の知識や理論を学び、その学んだ知識や理論を国内外で行う問題解決型の実践的な学習機会などを通じて身に付ける。目標とする進路イメージは、国際公務員、外務省専門職、青年海外協力隊など。「グローバルビジネス専攻」は、留学を前提に徹底的に英語力を強化。留学中は、正規留学として英語で経済学・経営学を学びながらグローバル社会の中で活躍するグローバルリーダーを育成する。定員は160名(各学科80名)を予定している。



受験生が関心持つ大学1位、関東は早稲田大学、近畿は関西大学

受験生が関心を持つ大学ランキングで関東地区は早稲田大学、中部地区は名城大学が4年連続、近畿地区は関西大学が3年連続で1位になったことが分かった。高校生に進学情報を提供するfromページの全国調査で明らかになった。

調査は2019年度の大学受験生約47万人にメールなどで関心を持つ大学の調査実施を告知したうえで、2018年10月から2019年4月1日にかけて、ウェブ上のアンケートフォームから回答を得た。有効回答者数は4万605人。

それによると、全国を6地区に分けて実施したランキングは、北海道・東北地区が東北大学、北海道大学、山形大学の順。国立大学3校でトップ3を占めた。関東地区は早稲田大学で、以下明治大学、慶應義塾大学と続き、有名私大が上位3校を独占している。中部地区は名城大学が4年連続で1位に輝いた。2位は南山大学、3位は名古屋大学だった。

近畿地区は関西大学が3年連続でトップ。2位が近畿大学、3位が立命館大学と有名私大に関心が集まっている。中国・四国地区は岡山大学、広島大学、愛媛大学と続き、国立大学3校が上位を占めた。九州・沖縄地区は私立の福岡大学がトップを占めたが、2

位は九州大学、3位は熊本大学と国立大学が入っている。

有名私大は従来から全国的な関心を集めてきたが、今回の調査でも早稲田大学は6地区すべてでトップ20に入ったほか、立命館大学は地元の近畿地区に加え、中部、中国・四国、九州・沖縄地区でもトップ20にランクインしている。



理工系スーパーグローバル大学として、留学必須の新プログラム開始 芝浦工業大学

芝浦工業大学は4月から、半年間以上の海外留学や英語での卒業論文提出などを必須とする国際プログラムをシステム理工学部で本格的にスタートさせる。新入生のうち1割を上限に入学後に所属変更できるコースで、国際コミュニケーション力を持つ人材の育成を狙っている。

芝浦工業大学は2014年度、「スーパーグローバル大学等事業」に私立理工系大学で唯一採択され、10年間の支援を受け世界で活躍する理工系人材を育成する『SHIBAURA モデル』の構築に挑んでいる。今回のプログラムもその一環として立ち上げられた。

国際プログラムは2017年度からシステム理工学部の3学科でスタートし、現在36人が所属しているが、これを4月から全5学科に拡大する。卒業に必要な124単位のうち、4分の1以上に相当する32単位の専門科目を英語で受講する。

その中には、1年次の夏季休暇中に海外の協定校で開かれる工学英語研修の単位取得も含まれており、現地の

学生とともにプログラミングを学習する。

3年次には前後期の半年以上の期間、海外へ留学する。海外からの留学生をサポートするバディ制度も授業として単位化し、受け入れの立場から海外留学をシミュレーションできるようにする。

4年次に配属される研究室で1年間研究活動を行ったのち、卒業論文は英語で提出、発表を行うことが必須となる。



北里大学と津田塾大学が紙幣刷新についてコメント発表

財務省は偽造抵抗力強化等の観点から、2024年度を目途に、一万円、五千円及び千円を新たに発行すると発表した。新千円札の肖像に決まった北里柴三郎氏が創立した北里研究所・北里大学、新五千円札の肖像となる津田梅子氏の創立した津田塾大学では、それぞれのHPで紙幣刷新についてコメントを発表した。

新・千円札に決定した北里柴三郎氏の創立した北里研究所・北里大学では、北里氏について広く一般に知ってもらい、身近に感じてもらうと、HPで経歴と業績を紹介している。北里氏の門下生にはハブ毒の血清療法を研究した北島多一、赤痢菌を発見した志賀潔、マラリアやツツガムシ病を研究した宮島幹之助、梅毒の特効薬サルバルサンの創製に成功した秦佐八郎、黄熱病や梅毒の研究で知られている野口英世などがおり、世界レベルの研究者を育てた。

今回の決定をうけ、北里研究所・北里大学では、北里柴三郎が現在の一万円札になっている福澤諭吉を恩

師と仰ぎ、また、現在の千円札の野口英世を育てたことにふれ、何かの縁を感じるとコメントした。

また、新五千円札の津田梅子は、1900年に日本で最初の女性のための高等教育機関の一つである女子英学塾(津田塾大学の前身)を創設した。高橋裕子学長は「女性リーダーの育成に力を尽くし、女性の社会参画の機会を拡大したパイオニアです。後進の女性リーダーを輩出することに邁進した津田梅子を模範にして、梅子のバトンを着実に引き継ぎ、『変革を担う女性』たちをこれからも力強く育ててまいります」とコメントを発表した。



近畿大学、つんく氏プロデュースによる「令和元年度入学生」の入学式を開催

近畿大学の入学式が4月6日(土)、大阪府東大阪市の東大阪キャンパスで挙行された。入学式出席の新入生は約7,200人、保護者や在学生等を含めると、総勢1万6千人以上がキャンパスに集う。式場である記念会館へは、朝から大勢の新入生が列をなして向かい、マンモス大学ならではの光景が見られた。保護者は別会場にて入学式の模様を中継で見守るといった形式を採る。

近畿大学は2019年度入試において志願者数15万4,672人と、6年連続で全国トップを維持している。新入生数が最も多い学部は、経営学部で1,321人。続いて理工学部1,136人、経済学部663人、農学部641人。

入学式総合プロデューサー、つんく氏(平成3年卒)が手掛ける今年のテーマは『THE KINDAI MOVEMENT ~君から始まる新時代~』。「近畿大

学が巻き起こす、世界が驚くようなムーブメントの最初の一歩」となるよう、激励の気持ちが込められている。つんく氏プロデュースの入学式は、従来の入学式を超越した斬新な企画で、固定観念にとらわれない「近畿大学らしさ」を演出した。

細井美彦学長の式辞では、新入生を「令和元年度入学生」として迎えることを宣言。新入生からはどよめきが起り、新しい時代の幕開けを予感させた。また、来賓代表の世耕弘成氏(経済産業大臣、近畿大学校友会名誉会長)の祝辞では、シンギュラリティにも触れ、会社を選ぶ、業界を選ぶ時代ではなくてきている、大学生活の中で自らが好きなこと、得意なことを見付けてほしい、大学はその見つける作業を応援する、との力強いメッセージが新入生へ送られた。

式終盤でのつんく氏のメッセージは、新入生を温かく迎えると共に、これからの人生を創造する上での熱い激励が込められており、会場内に感動の渦が広がった。

フィナーレでは、新入生全員がそれぞれの抱負を記した紙飛行機を一斉に飛ばし、新しい門出としての一体感が形成された。未来を担う若人がこれからどのように花開くか、今後の歩みが楽しみとなる入学式であった。

【近畿大学概要】

所在地：大阪府東大阪市小若江3-4-1

設立：1925年

代表者：学長 細井 美彦(ほそい よしひこ)

学園組織：14学部48学科、大学院11研究科、2短大、併設学校18校園、総合病院2カ所



日本の大学・教育関連専門のニュースサイト

大学ジャーナル

UNIVERSITY JOURNAL

ONLINE

その他の詳しい大学関連ニュースは

大学ジャーナルオンライン

SEARCH



@univjournal



大学ジャーナルオンライン

科学の甲子園特集

実技競技詳細解説

実技競技①

「地学ペンタスロン」

【課題1】の「地球の重さを求める」は、岩石学からの出題で、花こう岩・斑れい岩・かんらん岩の三種類の岩石の密度を測定し、地球の中心核の物質を推定するというもの。地球の大陸地殻は花こう岩、海洋地殻は斑れい岩(玄武岩質の深成岩)、マントルはかんらん岩からできている。固体を液体中に入ると、押しつけた体積の液体の重さだけ軽くなる、というアルキメデスの原理(浮力の原理)を用いて、これらの密度を計算し、そこから該当する物質を推定する。

【課題2】の「地震源を特定する」は、地球物理の地震学からの出題で、地震波の資料から震源の位置(震央)、深さ、発生時刻を決定するというもの。震源距離は初期微動継続時間に比例するという大森公式を使って各地点からの震源距離を地震波の資料から計算し、これらの情報からコンパスなどを用いて作図することにより、震央・震源を決定する。

【課題3】の「リップルを作成する」は、堆積学の地質学からの出題で、水槽内の砂地に波状模様(リップル)を作成するというもの。リップルの形成には大きく分けて、水の流れが「一方向のもの」と「行ったり来たりするもの」の二つがある。今回の場合は水槽内ということで、後者によってリップルを作成することに気づけたかがポイントとなった。つくり方としては、水槽を左右に小刻みに動かして、砂の表面を水の摩擦力による侵食作用で削り、その砂の堆積作用によってリップルを形成するというものである。課題では家庭にある身近な道具などを使ってリップルを作成するわけだが、いくつかダミーの道具もあり、何をを使うかがクリアできるかどうかの分かれ目になった。

【課題4】の「浅海波の速度を測定する」は、海洋学からの出題で、水槽内に波を発生させ、映像を記録し、波の速度を推定するというもの。浅海波(浅水波)とは、水深が波の波長に比べて十分に浅く、流速が深さによらずに一定と考えられる波。例えば津波は、波長が数キロから数百キロメートルと非常に長く、海洋の深さが数千メートル程度では波長に比して十分に浅いことになり、浅海波にあたる。浅海波の波動方程式を解くと、伝播速度は水深の平方根に比例することが知られている。波長が水深より十分に長い波をつくることのできるか、また波の先頭が壁にぶつかる前に測定できるかがポイントとなった。

【課題5】の「恒星までの距離を求める」は、天文学からの出題で、会場内に設置された模擬天体「恒星A」と地球の距離を求めるというもの。年周視差は、恒星と地球、恒星と太陽を結ぶ二直線のつくる角度で表され、これと地球の公転軌道半径から三角法を用いて恒星までの距離が決定できる。また、年周視差と恒星までの距離は反比例の関係にある。課題では、そばに見える土星の直径を考慮し、恒星の年周視差を計算して、恒星までの距離を求める。

全体を通して、地学と身近なものを題材としながら、他分野の知識や技術との繋がりを強く感じさせる問題が出題されているのが印象的であった。また問題の背景をより深く学ぶことで、大学に入ってから学ぶ高度な内容に触れることができ、「科学好きの裾野を広げる」という科学の甲子園の趣旨に非常に合致している良い問題であった。

埼玉大学大学院理工学研究科
中川 幸一

実技競技②

午後からの実技競技②は「糖を問う」と駄洒落と思わせる題名の化学実験問題である。制限時間は100分、3人で行う競技である。化学の実験だけあって、問題用紙には安全に実験を行うための必要事項、白衣、保護めがね、実験用手袋の着用が明記してある。さらに加えるなら、「髪の毛が長い人は後ろで結わえておこう」であろう。また本実験に限ってあえて加えるなら、「溶液は決して舐めてはいけない!」であろう。もっとも私が見ていた限り溶液を舐めている選手はいなかった。

実験は、まず設計図に従い簡易型旋光度計(下図)を製作する図工から始まる。【実験1】ではそれを使って、与えられた5種類の未知の糖類溶液の旋光度を測定する。【実験2】では、塩酸酸性による加水分解前後のフェーリング液の還元によって化学的性質を調べ、還元性のある単糖類と還元性のない二糖類に分類する。そして【実験3】では、薄層クロマトグラフィーにて、単糖類、二糖類の同定をする。

また、その実験結果から問われる問題は問1 未知の糖類溶液5種類の同定とその理由



問2 還元性のない糖類溶液の決定とその理由

問3 二糖類を構成する単糖類の種類決定とその理由
の3問であった。

各糖類の性質と物性が問題用紙に示されており、実験がミス無く最後まで行われ、正しい結果が得られていれば、問題には容易に答えられると思われる。

本実験における最大の難所は、【実験3】であろう。まず、薄層クロマトグラフィーの的確なスポット打ちと展開時間の確保、その後の発色剤処理とRf値の測定など、どれも高校生には経験の少ないものであった。そのため予想以上に手間取り、最後まで終わられなかった学校もあったのではないだろうか。

本来、化学実験室で行われる溶液系の実験を、体育館という水も自由に使えない状況で組み上げるには、様々な工夫がなされていたと思われる。予備実験も何回も繰り返し、期待される結果が確実に達成できることを何度も確認し、問題作成がなされたと思われる。問題作成に携わった先生方の工夫と努力に加えて、強酸を扱ったりホットプレートの熱源を扱ったりと、危険も伴う実験もあり、多くの監督の先生方の緊張感のあるサポート体制にも感心した。

旋光度計作りの工作から始まり、二糖類の加水分解、フェーリング液の還元、薄層クロマトグラフィーと、一連の流れで糖に関する知識と実験を一通り学ぶプログラムであり、レベル的には大学の基礎の化学実験ではある。また、発展的な内容も含まれているため、器具類等がそろえられる高等学校においては、このまま課題研究として扱うこともできる内容である。

東洋大学食環境科学部客員教授
日本化学会フェロー
柄山正樹

16歳からの
大学論

京都大学 学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野 公樹先生

Profile

1973年石川県生まれ。2010~14年に文部科学省研究振興局学術調査官も兼任。2011~2014年総長学事補佐。専門は学問論、大学論、政策科学。南部陽一郎研究奨励賞、日本金属学会論文賞他。著書に「研究を深める5つの問い」講談社など。

第19回

むしろ「知識」ではなく「考え」を

3月に新刊「学問からの手紙—時代に流されない思考—」(小学館)を上梓しました。発刊月に京都大学生協書店で月刊売り上げ第一位を頂くなど、ありがたい限りです。まだ一ヶ月たらずですが少しずつ感想を頂いており、今回はそれをもとに考えを深めたいと思います。

『細かい点を取り上げて議論するような本じゃない』(東工大・准教授)

とてもありがたいご感想です。事実、拙書に頂いた感想のほぼすべてが、著者の論に対して何か意見を言うというものではないんです。なんと云ったらいいか、ご自身の志や今の研究に至る経緯などをどうと語られるものが多いんです。

もちろん著者の未熟さから、読者にとって「ほんとにそうかな?」といったような気になる点も多々あるでしょう。しかしそ

れを個々にピックアップして指摘する気にはならないらしいのです。これはなぜなのか? おそらくは、この本が何かを主張したり、「〇すべき!」といった意見を述べたりしておらず、あるいは、これまで知らなかった知識を得てもらおうというものではないことが理由からではないでしょうか。あえて言うなら、考えを促す本。だとすれば学者冥利につきるというものですね。

『軽快な語り口と整った文章とは裏腹に、一ページページをめくるのがとても重たい。自分自身の学問との向き合い方を問い直され続けるような。院生だけでなく、学部生、中高生、いろんな人たちに届いてほしい「手紙」である。』(Twitterにてフォロワーの方から)

これもまた不思議ですが、お読みいただいた多くの現役研究者の方々が、学部生や中高生にも本書を読むことを勧めておられます。とても嬉しいことです。た

しかに本書は学問や大学について語ってはいますが、本当はそれらの根底にある生きることにおける本質そのものについて述べたつもりですので、研究や大学関係以外の方、そして学部生や中高生にも響くであろうというご感想をいただきたくことができ、わずかながらもその本質に迫れたのではないかと安堵しています。

ただ、実はまだ中高生の方からのご感想は私には届いていません。そこでもし本紙の読者から何かしらの感想をいただけたら、この場で取り上げさせていただきます。勉強させていただきます。

『引き込まれつつ考えているとなかなか進まず本当に良い本です』(Twitterにてフォロワーの方から)

実は、私が「良い本」と思うのは、まさになかなか読み進まない本なのです。一行読んでふと考え、車窓を眺めて思考にふける…(myベスト読書タイムは新幹線か京阪電車)。半日かけて1ページも読み進まないという時もあります。まさか自分の本がそのように読まれるようになるのは驚きでした。ありがたいことです。

以上、拙書の振り返りをさせてもらいましたが、お伝えしたかったのは、知識を得ることもさることながら、それと同等かそれ以上に、「考える」ことが大事だということです。情動的な単なる知識なら教えることはできます。しかし「考える」ということは絶対に教えられません。「考える」というのは自らが感じ、自らが想うことでこそ発動される身体的行為です。どうやら本書も少しはそれに貢献しているようで、本当に嬉しい限りです。(つづく)



編集部では、昨年の「16歳からの志望理由書トライアル」に続いて、「学問からの手紙—時代に流されない思考—」の読書感想文を募集しています。応募方法は129号8ページをご参考に。

科学の甲子園全国大会

人工知能とゲノム編集などの第一線研究者4氏が特別シンポジウムに
新イノベーションを創造するには

各実技競技の1位は次の通り。
実技競技①(トヨタ賞) 滋賀・県立膳所高校▽同②(パナソニック賞) 愛知・海陽中等教育学校▽同③

(SHIMADZU賞) 岐阜・県立岐阜高校。各企業特別賞には、旭化成賞(茨城・県立旭化成高等学校)、アジレント・テクノロジー賞(秋田・県立秋田高等学校、学研賞(石川・県立金沢泉丘高校、埼玉県経営者協会賞(埼玉・県立浦和高校、スカーパーJSAAT賞(長崎・青雲高校、帝人賞(岐阜・県立岐阜高校、テクノプロ賞(宮城・宮城県仙台二華高校がそれぞれ選ばれました。

また、大会3日目に

開かれた特別シンポジウムは「ポスト平成時代の新しいイノベーション」でした。日本人のノーベル賞受賞が相次いだ平成20年代ですが、華々しいニュースの影で、日本の科学技術に関する論文数やその引用数は海外と比べて低下傾向にあるといわれています。

戸田大学大学院教授▽航

日本の科学の将来が懸念される中で迎える「ポスト平成時代」に創造的な研究や技術開発で、新たなイノベーションを巻き起こせるのかを人工知能やゲノム編集などの注目分野で脚光を浴びる研究者4氏がパネリストになり議論しました。



空管制システムの研究者である伊藤恵理・国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所/電子航法研究所主任研究員の4氏。
4氏は、新しい時代のイノベーターになるために必要なこととして「理系、文系の融合。STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) 教育+ A (Art) も重要」(伊藤氏)▽「デビューラニングの技術をぜひ学んでほしい」(松尾氏)▽「やりたいことから逆算することが大事」(暦本氏)▽「思いついてやろうとしても世界ではやっていない人が多い。自分にしか思いつかず、普通には起こり得ないような組み合わせを目指せ」(西田氏)と語りました。



暦本 純一氏



松尾 豊氏



西田 敬二氏



伊藤 恵理氏

10 学部をむすぶ
ワンキャンパス

むすんで、うみだす。
京都産業大学
KYOTO SANGYO UNIVERSITY

- 経済学部 ● 外国語学部
- 経営学部 ● 文化学部
- 法学部 ● 理学部
- 現代社会学部 ● 情報理工学部
- 国際関係学部 ● 生命科学部

入学センター

〒603-8555
京都市北区上賀茂本山
TEL 075-705-1437

京都産業大学 検索

(※記事は現地取材及び科学技術振興機構のHP「科学の甲子園」などを参照しました。※写真提供/国立研究開発法人 科学技術振興機構)

周到な準備と工夫で勝ち抜け

科学の甲子園全国大会



実技②

化学から「糖」を問う／3種の 実験で糖の種類を特定せよ

「糖を問う」(同3人・同2時間)は化学の出題。1問目は旋光性を調べる実験です。糖の溶液に偏光した光を当て、その角度の変化から、糖の種類を特定します。2問目は糖の溶液に糖の検出や定量に用いる試薬であるフエーリング液を混ぜ、還元されることで起きる色の変化から糖を特定します。3問目は薄層クロマトグラフィー(TLC)を使います。



TLCプレートに糖の溶液をスポットし、溶媒で展開。発色剤を塗って、熱することで色が浮かび上がる。これから糖を特定します。限られた時間の中で適切に実験するスキルが問われました。1位は海陽中等教育学校で「工作が得意な内川君が、途中で一部壊れた器具を修復してくれたのが1位になった勝因」と喜んでいました。(詳細解説は05面に)

実技③

ツール・ド・さいたま ジャイロ二輪車でデッドヒート

事前に公開された実技③は「ツール・ド・さいたま」(競技者4人・競技時間2時間30分)でした。用意された材料と工具でジャイロ二輪車を60分以内に製作し、定められたコース(予選は30分、決勝は33分)を走らせ、所要時間を競います。走行の安定性を増すジャイロ効果を2輪車に持たせるのと手回し発電機による充電時間の調整などがポイントになりました。



予選の上位8チームが出場した決勝は、長崎・青雲高校、福井・藤島高校、岐阜・岐阜高校、神奈川・栄光学園の接戦になりましたが、岐阜高校が先行した青雲、藤島を抜き去り、栄光学園をかわしてデッドヒートを制しました。勝因は大胆な設計です。大幅な軽量化のためスタート直前に電池を外し、惰性でジャイロを走らせるように工夫しました。メンバーは「これでレースタイムを早められた。百折不撓(「何回失敗しても志をまげないこと)の精神でやっただぞ!」と快哉を叫びました。

ゲノムから宇宙まで!

法政大学の理系は4学部13学科

さらに、150以上の研究室があり、幅広い学びがあなたを待っています
たくさんの研究分野から、自分のやりたいことが、きっと見つかる!

「気になるキーワード」で
理系学部の研究室を探そう!



情報科学部

デザイン工学部

理工学部

生命科学部

お問い合わせ 法政大学入学センター



〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1
TEL 03-3264-9300(直通)

法政 入試

検索



最後の最後まで考え抜く



科学の甲子園全国大会

709校、9075人がエントリー

過去最多の学校数と出場者

科学の甲子園は、「広げよう科学の輪 活かそう科学の英知」をスローガンに2012年に創設されました。今年大会には、過去最多の709校から9075人がエントリーし、各都道府県の選考を経て、47校361人が出場を果たしました。開会式では、選手を代表して青森県立弘前高校の佐々木慎一郎さんと石黒詠子さんが「日本全国のサイエンス好きとの交流を深め、最後の最後までポイントを競いました。」と宣誓しました。大会初日に科学に関する知識とその応用力を競う筆記競技(360点)を、2日目に3つの実技競技(各240点)を行い、その合計点を競いました。

筆記

物理や地学など6分野の課題に挑む

筆記競技は競技者6人・競技時間2時間で、物理、化学、生物、地学、数学、情報の6分野12問に挑みました。例えば、物理の設問では、体長1mm程度のバクテリアの多くが持つ鞭毛には直径50nm(ナノ・m)程度の回転モーターがあり、それを高速回転させて進みま

す。この鞭毛モーターが1回転する間に約1000個の水素イオンが細胞膜内に流入するといわれており、モーターが1分間に6000回転するとき、1秒間に細胞内に流入する水素イオンの個数を求めさせるなど、生物を取り扱った物理という分野融合的な問題でした。

選手らは、教科・科目の枠を超えた問題に對しても、得意分野の異なるメンバーが、チームワークを発揮してカバーしあい、難問に挑みました。筆記競技では総合優勝の海陽中等教育学校が最高得点をあげ、第1位の講談社賞に輝きました。

実技①

地学ペンタスロン／地学の「知の5種競技」で白熱戦

「地学ペンタスロン」(競技者3人・競技時間100分)は地学の課題。古代オリンピックの5種競技がペンタスロン。これを高校で学ぶ地質や海洋、天文などに関連した5課題にして「地学の知の5種競技」としました。

選手らは、与えられた実技機材だけを使って、①地球の重さ②震源を決定③リップル(波状模様)を作成④

浅海波の速度を測定⑤恒星までの距離、をそれぞれ時間内に求める難題に挑みました。

①は3種の岩石の密度を測定し、その結果から地球の中心核の物質を推定します。②は地図上の各地点の地震波の資料から震央の位置、震源の深さ、地震発生時刻を決定しました。③は水槽内の砂や水に触れずに波状模様を作成します。④は長

い水槽内で波を発生させ、映像で記録し、その速度を測定するものです。⑤は地球から会場内に設置された模擬天体恒星Aまでの距離を求めました。

1位は滋賀県立膳所高校で「3つの課題で3人の得意分野があった。それとことん突き詰めて得点できたのが大きかった」ことを勝因に挙げました。(詳細解説は05面に)

都道府県名	学校名(カッコ内は出場回数です)
北海道	北海道函館中部高校(初)
青森県	県立弘前高校(2)
岩手県	県立盛岡第一高校(7)
宮城県	宮城県仙台二華高校(2)
秋田県	県立秋田高校(7)
山形県	県立山形東高校(4)
福島県	いわき秀英高校(初)
茨城県	県立並木中等教育学校(3)
栃木県	県立宇都宮女子高校(初)
群馬県	伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校(初)
埼玉県	県立浦和高校(4)
千葉県	渋谷教育学園幕張高校(5)
東京都	都立武蔵高校(初)
神奈川県	栄光学園高校(8)
新潟県	県立新潟高校(7)
富山県	県立富山中部高校(6)
石川県	県立金沢泉丘高校(6)
福井県	県立藤島高校(7)
山梨県	県立吉田高校(3)
長野県	松本秀峰中等教育学校(3)
岐阜県	県立岐阜卓高校(8)
静岡県	県立沼津東高校(2)
愛知県	海陽中等教育学校(4)
三重県	県立四日市高校(2)
滋賀県	県立膳所高校(8)
京都府	京都市立堀川高校(3)
大阪府	大阪星光学院高校(4)
兵庫県	県立宝塚北高校(初)
奈良県	帝塚山高校(2)
和歌山県	県立向陽高校(初)
鳥取県	県立鳥取西高校(8)
島根県	県立出雲高校(2)
岡山県	県立倉敷天城高校(2)
広島県	広島大学附属福山高校(初)
山口県	徳山高校(4)
徳島県	県立徳島科学技術高校(初)
香川県	県立丸亀高校(4)
愛媛県	愛光高校(2)
高知県	高知学芸高校(6)
福岡県	久留米大学附設高校(7)
佐賀県	弘学館高校(3)
長崎県	青雲高校(3)
熊本県	真和高校(3)
大分県	県立大分上野丘高校(5)
宮崎県	県立宮崎西高校(8)
鹿児島県	ラ・サール高校(8)
沖縄県	県立向陽高校(初)

初出場は北海道・東京・沖縄など10校 8回連続も栄光、膳所など6校が

- 協賛企業・団体 (50音順)
- 旭化成株式会社 ● アジレント・テクノロジー株式会社 ● 株式会社内田洋行 ● AGS株式会社 ● 株式会社学研ホールディングス ● ケニス株式会社 ● 株式会社講談社 (Rikejo) ● 一般社団法人埼玉県経営者協会 ● 株式会社埼玉りそな銀行 ● 一般社団法人CIEE国際教育交換協議会 ● 株式会社島津製作所/株式会社島津理化 ● 株式会社しまむら ● 株式会社昭和技研工業 ● スカパーJSAT株式会社 ● 株式会社タムロン ● 帝人株式会社 ● テクノプロ・グループ ● トヨタ自動車株式会社 ● 株式会社ナリカ ● 公益社団法人日本理科学教育振興協会 ● パナソニック株式会社 ● ポーライト株式会社 ● 株式会社武蔵野銀行 ● 株式会社ヤガミ ● 株式会社UL Japan

- 応援企業・団体 (50音順)
- サントリーホールディングス株式会社 ● トキタ種苗株式会社 ● 公益財団法人日本発明振興協会 ● 株式会社ハーベス ● プリタニカ・ジャパン株式会社

第8回 科学の甲子園全国大会

2度目の日本で総合優勝した海陽中等教育学校のメンバー



2度目の日本一

愛知・海陽中等教育学校が総合優勝 — 中学部門もW優勝の快挙達成 —

大学 FREE
ジャーナル
科学の甲子園特集

発行所:くらむぼん出版 〒531-0071 大阪市北区中津1-14-2
TEL06(6372)5372 FAX06(6372)5374
E-mail KYA01311@nifty.com

第8回科学の甲子園全国大会(科学技術振興機構、埼玉県など主催)が、3月15~18日の4日間、さいたま市のソニックシティとサイデン化学アリーナで開催されました。全国47都道府県代表の高校生たちがチームで競い合った結果、愛知県代表の私立海陽中等教育学校が3年ぶり2回目の総合優勝を果たしました。初の2度目の日本一です。また、中学部門の第6回ジュニア大会(昨年12月)でも優勝し、中高でW優勝の快挙を成し遂げました。全国大会の2位は前年優勝の私立栄光学園高校(神奈川県)、3位は滋賀県立膳所高等学校でした。海陽中等教育学校は、5月31日から米国・ニューヨーク州のコーネル大学で開かれる「サイエンス・オリンピックアド2019」に参加します。



海陽中等教育学校は、2006年に開校した中高一貫の全寮制の私立男子校です。「科学の甲子園」では、第5回に初出場して優勝という快挙を達成。6回も総合3位、7回は埼玉県経営者協会賞を受賞した強豪校です。今年のメンバーは2年生6人と1年生2人。2年生は4人が東京大学を、2人が京都大学を志望しています。キャプテンは昨年も参加したもののインフルエンザにかかり競技には出場できず、今年こそは「リベンジを」とみ込んで入念に準備を重ねてきたそうです。その努力が実り、筆記試験と実技競技②で1位に輝き、総合優勝に結びつけました。



優勝の喜び 「リベンジできた 努力報われうれしい」

学実験では土星の大きさを測り忘れたりと悔が残る。最終的に優勝できたことをチームメイトに感謝したい(岡本直樹さん・2年)▽「個人の科学オリンピックでは5回連続銀メダル。また、2位ではとどきドキした。仲間と一緒にの舞台で1位になれば、ジーンクスを打ち破れたことがうれしい」(桜田晃太郎さん・2年)▽「レース競技では力が出せず、総合優勝は無理か、と話していた。他の競技で挽回し優勝できてうれしいが、実感がない。アメリカでは準備をしっかりしたい」(内川涼介さん・



キャプテンで2年生の兒玉太陽さんは「この日のためにがんばってきたから、努力が報われて本当にうれしい。やりきった気持ちでいっばい。ジュニアが優勝し、この大会にも参加しているため、後輩に格好悪い姿を見せたくないなど努力してきた。W優勝で本当にうれしい。アメリカでも頑張ってきた」と喜んだ。他のメンバーも「優勝の瞬間は実感がなかったが、時間がたつにつれ、しみじみと感じている」(穴田悠人さん・2年)▽「個人的には実技③で発電機を崩したり、地

2位 私立栄光学園

『第8回 科学の甲子園全国大会』 成績一覧

競技・成績	学校名
総合優勝(文部科学大臣賞・CIEE Japan/ETS TOEFL賞)	愛知・海陽中等教育学校
総合2位(科学技術振興機構理事長賞・UL Japan賞)	神奈川・栄光学園高校
総合3位(埼玉県知事賞・埼玉りそな銀行賞)	滋賀・膳所高校
総合4位(さいたま市長賞・武蔵野銀行賞)	岐阜・県立岐阜高校
総合5位(日本理科学教育振興協会賞)	長崎・青雲高校
総合6位(しまむら賞)	愛媛・愛光高校
総合7位(AGS賞)	宮崎・県立宮崎西高校
総合8位(タムロン賞)	岡山・県立倉敷天城高校
総合9位(ポライト賞)	石川・県立金沢泉丘高校
総合10位(昭和技研工業賞)	兵庫・県立宝塚北高校
筆記競技1位(講談社賞)	愛知・海陽中等教育学校
筆記競技2位(内田洋行賞)	宮崎・県立宮崎西高校
実技競技① 1位(トヨタ賞)	滋賀・膳所高校
実技競技① 2位(ケニス賞)	青森・県立弘前高校
実技競技② 1位(パナソニック賞)	愛知・海陽中等教育学校
実技競技② 2位(ヤガミ賞)	東京・都立武蔵高校
実技競技③ 1位(SHIMADZU賞)	岐阜・県立岐阜高校
実技競技③ 2位(ナリカ賞)	神奈川・栄光学園高校
企業特別賞(旭化成賞) 優れたチームワークを発揮した優秀校	茨城・県立並木中等教育学校
企業特別賞(アジレント・テクノロジー賞) 実技競技②で優れた実験スキルを発揮した優秀校	秋田・県立秋田高校
企業特別賞(学研賞) 実技競技③で優れた設計・デザインを開発した優秀校	石川・県立金沢泉丘高校
企業特別賞(埼玉県経営者協会賞) 1年生1名以上を含むチームの中の優秀校	埼玉・県立浦和高校
企業特別賞(スカパーJSAT賞) 実技競技①で優れた考察力を発揮した優秀校	長崎・青雲高校
企業特別賞(帯人賞) 女子生徒3名以上を含むチームの中の最優秀校	岐阜・県立岐阜高校
企業特別賞(テクノプロ賞) 筆記競技で独創的な発想にもとづく解答をした優秀校	宮城・宮城県仙台二華高校

3位 滋賀県立膳所高校

も事前にあまり参加できず、貢献できなかった。達成できてうれしい「平石雄大さん・1年」▽「実技③で2年」▽「初の2回目の優勝、初のW優勝という記録をつくれてうれしい。結果は8人全員の力によるもの。全員に感謝したい」(田口仁さん・2年)▽「先輩にお世話になった。中1の時に先輩が優勝。その時から高校生になったらこの大会で優勝を夢見て頑張ってきたから、達成できてうれしい」(平石雄大さん・1年)▽「実技③でできていないと思っていたが、先輩の助けで優勝できうれしい。アメリカでも頑張りたい」(古舘勇人さん・1年)と喜びを語ってくれました。また、チームを率えた幡本陽介教師は「学校としてはほとんど指導していません。生徒個人の資質と全寮制で夜間もみんなで準備に取り組めたのが大きかったでしょう」と話していました。